

国際奉仕部門のミッション：

- ・海外奉仕・交流案件の現地要望情報の収集と整理、各クラブへの案件広報
- ・各クラブの国際奉仕活動フォロー
- ・韓国・第3750地区との交流

考察：

- ・毎月、プロジェクトの進捗報告、情報交換を実施。部門メンバー同士の親交を深めることで情報の収集がスムーズになった。
- ・国際奉仕部門のミッションは主に各クラブへの国際奉仕・交流を促し、フォローすることにある。
- ・その意味で、自クラブや他クラブへのPR、フォローが十分ではなかったかもしれない。
- ・また、韓国・第3750地区との交流は20年以上も前の先輩諸氏が築き上げた伝統で、2770地区を代表して国際奉仕部門中心に交流している。
- ・内容としては、お互いの地区大会のタイミングで訪問し、懇親を深める懇親会や旅行を実施している。
- ・松本も初めて韓国に伺い、おもてなしや、韓国の文化(食)に感動し、韓国を好きになる体験をした。
- ・韓国にも、日本を好きになるロータリアンが一人でも増えるよう、日本側でも対応していきたい。

■青少年奉仕部門 青少年交換委員会

川鍋 洋子

交換留学生のお世話は、夫がロータリー会員であったころから 茶道を通してお手伝いさせていただきましたので、その活動の素晴らしさは存じていました。本年度、実際にこの活動に携わらせていただき、ロータリー活動の目指すものがはっきりとしてきました。感謝しております。

一年生委員は、会議の議事録作成をします。10日以内にまとめてメールするので、時間に追われますが、活動内容を具体的に知る事ができました。また、派遣候補生選出では、いきなり英語問題作り、英語の面接試験を務めさせていただきました。責任重大な事を任された事によって、委員会での自分の居場所が見つかり始め、やりがいを感じる事ができました。

次に委員会は、選出された学生達に対して10回のオリエンテーションを行います。派遣候補生は、留学経験者ローテックスの素晴らしいリーダーシップと面倒見の良さで、一年かけて派遣までに必要な情報を得ながら、来日学生と英語で会話し、自覚を深めていきます。留学準備の好循環が生まれています。また、青少年交換委員会は、来日学生に対して、合宿、日本語教室、北本キャン、東京スカイツリー日帰り旅行、京都・広島旅行、白馬スキー合宿と様々な活動を通して、充実した日本での生活ができる様、全力で取り組んでおります。また、各国に派遣した学生達に対して YESS を通して、彼らの安全を昼夜問わず見守っています。今ご紹介した青少年交換委員会の仕事はまだ一部です。夢を語る若者たち学生たちの瞳は希望に輝いており、彼らの夢の実現のため、力を貸してあげる事は、私達にとって大きな喜びとなっています。

最後にご報告します。先週6月6日(木)に、派遣生と来日学生は埼玉県知事公舎を訪れ、大野知事から親善大使の委嘱書をいただきました。出発を目前にし、親善大使として新たな自覚が持てたようです。



■米山記念奨学部門 米山記念奨学増進委員会

副委員長 増永 裕樹

米山奨学生は米山梅吉記念館などへの年2回のバス旅行、感謝の集い、部門セミナーのほか、当クラブの鐘塚公園でのイベントなど各クラブによる事業へ参加しております。我々委員はその手伝いです。そのほか奨学生の重要な任務と言え、各クラブでの卓話。委員も同行して少々お話しする機会があるのですが、その時に質問をされることがあります。



イベントがあるたびに出来る質問は何かとあります。①自動車を保有しているような裕福な奨学生を支援する必要があるのか ②特定の国の奨学生が非常に多く、それも日本と政治的に対立している国の若者を支援する必要があるのか、の2点です。それを聞くたび、米山事業はまだ浸透していないのだと痛感します。

おそらく質問の根底にあるのは米山事業に対する誤解なのでしょう。当事業は貧しい学生に対する「施し」ではありません。その目的は日本と世界をつなぐ架け橋を作ること。日本の慣習を学び、我々の思考回路を理解する。そんな貴重な仲間を育てるのが事業の目的で、いわば日本の未来に対する「投資」なのです。

国際理解、親善、平和を推進すること。ロータリーの目的が掲げる世界の実現は簡単ではありません。外交の世界では限られた富を得るために厳しい交渉を重ねます。その時に我々の主張を理解する人物が相手国にいたらどうでしょう。我々の意図を相手に「翻訳」する存在がいたら、無駄な争いを避けるための心強い存在になるはず。対立の芽があるからこそ架け橋が必要なのです。

その未来の架け橋であるリャンちゃんとは是非話してください。史跡に連れて行く。伝統芸能を見せる。それも良いかもしれませんが、しかし、最も重要なのは我々の考えを伝え、理解してもらい、逆にリャンちゃんを知ることです。

いま一つお願いがあります。リャンちゃんの次を担う優秀な奨学生を得るための一手です。米山事業に関わるのは全てのクラブではありません。奨学生の数は限られており、残念ながら全クラブに割り当てては出来ません。その可否を分けるのは寄付金です。大宮西ロータリークラブの次年度米山委員長である内藤さんを助けることにもなります。勝負は年末までとなります。皆様のご助力をお願いいたします。

■管理運営部門 クラブ活性化委員会 風岡 淳一

クラブ活性化委員会は DEI を積極的に取り入れることの推奨、戦略計画作成・行動計画の策定、MY Rotary 登録率向上と利用促進、ロータリー賞へのチャレンジに関して、卓話を希望するクラブに卓話を行ってまいりましたが、卓話を希望するクラブが少なかったことは否めず、実際の主な活動は同じ管理運営部門の RLI 運営委員会とともに RLI の運営を行うことでした。RLI とはロータリー・リーダーシップ研究会の略で、6つのセッションについてグループでディスカッションを行いながらロータリーの基本について学んでいくというもので、パートI、パートII、パートIIIの3回受講により修了となります。受講の順番は問わず、また3回を複数年にまたがって受講することも可能です。本年度は10月22日に RLI パートI、12月16日に RLI パートII、1月27日に RLI パートIIIが行われました。また、パートIII終了後には懇親会も開催されました。ディスカッ